

花時計



vol. 41

2020 March

特集

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニングレポート

新任教員紹介

退職教員

学科&大学院の Topics of the year

BOOKS 新刊紹介

年間行事

教員エッセー



観光文化学科

ブライダルプロジェクト

～ 学生が作る自由な結婚式 ～



川村学園女子大学

我孫子キャンパス / 目白キャンパス

目白キャンパスのイベントカレンダー

国際英語学科

- ◆ 入学式
- ◆ 新入生オリエンテーション
(2019年は三菱一号館美術館で「ラファエル前派の軌跡展」を鑑賞しました)



- ◆ TOEIC IP テスト
(国際英語学科学生は全員受験します。)

- ◆ レシテーションコンテスト・予選
(国際英語学科の1年生が全員参加します。予選終了後にはピザパーティーが行われます。)



- ◆ 短期語学研修
(イギリスのオックスフォードにおける3週間の英語研修です。)

- ◆ 川村英文学会大会

(川村英文学会の年次大会です。学外の講師による講演会の開催や卒業生による現状報告会を行っています。)



- ◆ 鶴雅祭 (文化祭)
レシテーションコンテスト・スピーチコンテスト
(鶴雅祭の一環として、国際英語学科主催で行われます。)



- ◆ ハロウィンパーティー

- ◆ 観劇会
(文化体験の一環として、毎年1・2年生を対象に劇場での観劇を行っています。)

- ◆ クリスマス



- ◆ TOEIC IP テスト

- ◆ 短期語学研修
(ニュージーランドのオークランドにおける4週間の英語研修+インターンシップです。)

- ◆ 学位授与式・卒業パーティー

観光文化学科

- ◆ 入学式
- ◆ 新入生オリエンテーション
(2019年は帝国ホテルにおいて見学・研修を実施致しました)



- ◆ 春秋航空プロジェクト
(ルスツリゾート・札幌)

- ◆ 世界遺産検定



- ◆ ゼミ合宿

- ◆ 旅行業務取扱管理者
- ◆ 世界遺産検定

- ◆ 鶴雅祭 (学園祭)



- ◆ ハロウィンパーティー
- ◆ ブライダルプロジェクト (自由学園明日館)
- ◆ 駅からハイキング・プロジェクト (JR 川口駅)

- ◆ 第1回温泉検定 (会場: 本学目白キャンパス)
- ◆ 温泉ソムリエセミナー (会場: 本学目白キャンパス)
- ◆ クリスマス



- ◆ 学位授与式・卒業パーティー

アクティブ・ラーニングレポート

国際英語学科ではアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が積極的に行われています。



実習

通訳ガイド実習

イタリア人の家族を案内

国際英語学科2年
伊東 環

2年生の11月に、国際英語学科の2年生全員、そして先生方と一緒に浅草に行きました。これは、ネイティブスピーカーの先生方を外国人観光客に見立てて学生がガイド活動を行うというツアーです。当日は、船に乗ってクルーズを楽しんだり、浅草の歴史を学んだり、様々な体験をすることができました。

まず最初に、日の出桟橋から船に乗り、浅草寺方面へ向かいました。船の中ではキスチャック先生やシャバリン先生と一緒に船から見える景色を楽しみ、橋の名前や国技館について、様々な会話を

を交わしました。船を降りると、雷門近辺にある浅草文化観光センターに行き、浅草の歴史について学びました。また、浅草寺の宝蔵門では、シャバリン先生と仁王像や五重塔の建設や歴史についてお互いの情報を交換しました。

短い時間でしたが、日本の歴史を体感しながらネイティブの先生方と意見交換することができ、とても充実した時間を過ごせました。翌週の授業では、一人ずつ浅草ツアーの体験について発表し、リサーチ・プレゼンテーション体験を締め括りました。

私たちが案内したのはご夫婦と娘さんのイタリア人家族でした。お父さんは英語がとても上手で、私たちが理解できるようにゆっくり話してくれました。しかしお母さんは英語があまりわからないようで、私たちが英語で説明したことを、お父さんと娘さんがイタリア語に訳していたのがとても印象的でした。

はじめは、自分の英語がきちんと伝わっているか不安でしたが、質問してくれたことに答えたりしているうちに、ちゃんと伝わっているのだとわかり嬉しく思いました。また、明治神宮についての話だけでなく、日本のどこに行くのか、イタリアのおすすめの場所や食べ物のことなど様々な話ができ、とても楽しかったです。さらに、日本とイタリアの文化の違いや、言葉の意味の違いなどを話すことができ、外国と日本の違いを感じました。普段はなかなか気付くませんが、外国人の視点から日本を見たことで、日本の魅力を再確認できました。



tour

隅田川水上バスツアー

国際英語学科3年
後藤 まいこ



ニュージーランド研修は私にとってとても有意義で実りある体験でした。ホームステイ先ではとても親切にしてもらい、休みの日には一緒に犬の散歩に行ったり、映画を観たりしました。日本語が通じないのはもちろんですが、いざ話そうと思うとなかなか英語がスラスラとは出てこず、もどかしい思いもしました。その度にホストファミリーは優しい英語で話してくれたりアドバイスをくれたりしました。そのおかげでもっと英語

が話せるようになりたいという意欲につながりました。

また、インターンシップでは、学生向けのツアー会社で職業体験をしました。ここでは事務作業をしたり他の語学学校へ行って予約を受け付けたりしました。日本人の学生も多くいて、そのなかには英語を苦手とする人もいたため、つたない英語ながら通訳も行いました。そのときとても感謝されたことが思い出深く、やりがいを感じました。

ニュージーランド研修

国際英語学科3年
福留 望



留学・海外研修体験談



VOICE

国際英語学科では、毎年、多くの学生が留学や海外研修をしています。留学や海外研修を通し、英語の能力を高めるだけでなく、異文化に触れ、国際理解を深めることができます。

現地での生活にもだいぶ慣れてきました。台湾人はとても親切で、観光地へ案内してくれたり、美味しいお店に連れて行ってくれます。1年生から必修の授業に日本語の授業が多くあるため、みんな日本語が上手で、私に中国語の指導もしてくれます。言語だけでなく、お互いに文化についても教え合っています。また、最近は友達から習った中国語、授業や自分の参考書などで学んだ中国語を使って、1人で買い物をしたり、気になる飲食店に行ってみたりと生活の中で実践することに挑戦しています。

大学の授業については、『旅行日本語会話』『中級日本語』『観光と飲食の日本語』で中国語を学び、『リスニング&スピーキング』『観光英語』『中級英語会話』で英語を学んでいます。台湾人の英語の能力はとても高く、外国語学科の生徒はほとんどの人が日常会話以上の英語を話せます。そのため、授業のレベルもとても高く、ついていくのに精一杯ですが、なんとか頑張っています。



中山医学大学(台湾)留学

国際英語学科3年
渋谷 知夏
(現在、留学中)

アクティブ・ラーニングレポート

観光文化学科におけるアクティブラーニング授業の報告

1年次の5月に山形県の瀬見温泉プロジェクトに参加してから、在学中には多くの産学連携に携わりました。3年次には、藤田観光株式会社とのプロジェクトのリーダーを務め、東京ビッグサイトで行われた世界最大級の観光イベント、ツーリズム EXPO の藤田観光ブースに案内役として立ちました(写真)。その年に開業した箱根小涌園天悠の浴衣を着用し、その魅力を伝

えました。夏に4週間のインターンシップをさせていただいた、私にとっても思い出のある施設です。

観光文化学科では、机に向かって勉強するだけでなく、地域や企業の方々とプロジェクトを進めるチャンスが数多くありました。大変ではありましたが、人との関わり方を学んだり、地域や企業の本音に触れたり、かけがえのない経験になっています。



地域や企業とのプロジェクトの思い出

2019年3月卒業

鈴木祐里子 勤務先：橋本産業株式会社(専門商社)

観光文化実践Ⅳでは、近年多くの訪日外国人観光客に大人気の街、台東区谷中界隈を学びの舞台として、その魅力を探るべく、現場のフィールドワークを行っています。その一環として、昭和24年に開業して以来、谷中で多くのインバウンド客

を受け入れてきた「旅館澤の屋」における研修に参加しました。旅館澤の屋は、1982年以降、ガイドブック「ロンリープラネット」に掲載されたことをきっかけに、今では、クチコミサイト「トリップアドバイザー」の中で、東京の宿泊施設ランキング第1位に輝く程の人気旅館となっています。

世界中からの旅人に愛され続けている澤の屋旅館の魅力とホスピタリティの極意を、「観光カリスマ百選」の一人に選定されている澤功社長直々に御教示いただきました。一連の活動の成果物として、旅館澤の屋のポスターと谷中周辺の観光マップを作成いたしました。澤の屋旅館の方々に披露したところ、高い評価を頂き、ポスターは現在も入口に掲示して頂いております。



観光文化実践Ⅳ

「旅館 澤の屋」研修

観光文化学科4年

山下優加・松原鈴梨花



観光文化実践Ⅸ

ブライダル・プロジェクト

観光文化学科4年

齋藤友紀子

観光文化学科の専門科目、観光文化実践Ⅸでは、産学連携や地域連携を実践しております。今年度は、学生からの発案で結婚式を行うこととなりました。

プロジェクトは、4年生5名、2年生5名の計10名により、今年の4月から本格的にスタートしました。自由な挙式のイメージに合う施設を検討し、重要文化財でもある自由学園明日館に共催としてご協力いただき、講堂の使用が決定しました。そして、豊島区の後援を得て、結婚式を挙げていただけるカップルの公募を行いました。

“You can see… ～ 全ての想いを形に～” をテーマにしたこの結婚式は、11月2日(土)に行われました。招待客それぞれに宛てた手紙、列席者が入場前に撮影したメッセージ付きチェキ、リボン列席者の頭上に渡した「リングロープウェイ」での指輪の「入場」など、他にはない取り組みを行い、新郎新婦やご親族に喜んでいただきました。

観光文化学科における産学連携授業

VOICE

駅からハイキングは、JR 東日本が主催するハイキング&ウォーキングイベントです。青森から関東まで、JR 東日本の駅を起点に歩く、参加無料の日帰りイベントとして人気を誇っています。川口駅の駅長さんよりお声がけいただいて、2019年6月から1年生6名がこのプロジェクトに参加しました。川口市の観光セクションの皆様と川口駅の皆様とともに、コースをどのように設定するか、駅周辺やコース上でのおもてなしをどのように実施するかなどを検討したり、当日チャレンジしていただくクイズや、イベント後も

使えるようにと川口駅周辺のおすすめスポットを紹介するリーフレットを制作しました。駅からハイキングを紹介するスポット動画も学生が作り、川口駅前の大型ビジョンで繰り返し放送されました。駅からハイキング当日は晴天に恵まれ、利用者数は3日間で延べ約2,400名に達しました。学生メンバーは受付やゴールにて運営スタッフとして奮闘しました。



JR 東日本川口駅 駅からハイキング

観光文化学科教授 丹治 朋子





国際英語学科

国際英語学科では「英語を使う」体験を重ねて実社会で役立つ英語運用能力を身につけることを重視しています。主な活動をご紹介します。

1年生の必修科目「EIA I」ではレシテーション・コンテストを実施しています。英語の課題文を暗記し、外国人の先生の指導のもと、発音や発声だけでなく視線や表情、身振り手振りにも気を配って練習し、全員の前で発表します。後期には先生たちを「外国人観光客」に見立てて観光地へ案内する「通訳ガイド体験」を行います。

2年生以降の「国際文化演習(3)」では、助教の M・シャバリン先生がアジアやオセアニアの社会・文化について英語で教え、それをもとにグループワークを行います。“英語を”学ぶのでなく“英語で”他の科目を学び、リサーチや発表をすることは、英語の運用力を身につける上で大きな助けになります。

3・4年生が履修するW・キスチャック先生のゼミでは英語ミュージカルの上演を行います。今年度はキスチャック先生自身が書き下ろした Dust and Chocolate という寓話的な作品でした。英語のセリフや歌を披露しながらいかにオーディエンスを惹きつけるかに工夫をこらし、実社会で通用するプレゼンテーション力を磨きます。(菱田 信彦)



史学科

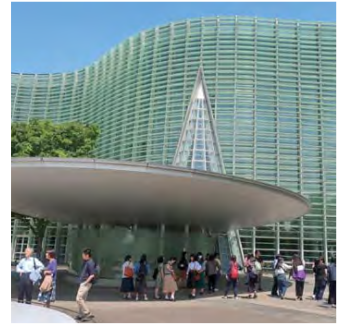
様々な角度から歴史に触れてもらうため、史学科では今年度も各学年で学外見学に出かけました。

まず、一年生はすみだ北斎美術館、深川江戸資料館そして清澄庭園を訪れました。それぞれにコンセプトの異なる美術館や庭園を見学しながら、新入生同士で交流を深める最初の機会になったと思います。ついで、5月には国立新美術館にて、「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」を鑑賞しました。このころになると一年生同士も打ち解けてきたようで、展示品を前にして話し込む姿も見られました。

2年生は、ドニゼッティの「愛の妙薬」を鑑賞しました。コミカルな演出や筋書きはオペラを初めて見る学生さんにも十分楽しめたようです。

3年生は全員で国立劇場まで歌舞伎鑑賞に出かけましたが、博物館実習で、埼玉県行田市のさきたま史跡の博物館を訪れるなど、他にも授業ごとに実習や見学に精力的に出かけています。また、4年生もいくつかのゼミで、鎌倉や滋賀県・福井県などを訪れ、それぞれの専門に即した実習・見学を行いました。

今後もさまざまな機会をとらえて、より身近に生きた歴史を体感して欲しいと思います。(大西 克典)



心理学科

心理学科では、H30年より公認心理師資格に対応した新カリキュラムを開始し、今年で2年目を迎えました。心理実習をはじめ、全ての学年に体験型授業を取り入れています。その中から2つご紹介します。

まず、1年生配当の基礎ゼミナールです。大学での学びの基礎を習得する全学共通科目です。この科目の中で、実体験から心理学のさまざまなテーマを少しずつ理解していきます。写真1は、臨床心理学で利用される箱庭療法の体験をしている姿です。理論の詳細は3～4年生で扱いますが、1年では触れて置いてながめてみる感覚を味わってみます。

次に、2年生配当の心理学実験です。名称は実験とありますが、調査や観察といった心理学で使われる複数の研究手法



写真1



写真2

を、体験を通じて学びます。写真2は、簡易的な測定機器で測定された心臓の活動とストレスの関係を実験的に学んでいる1シーンです。

このように、心理学科では専門知識・技能を体験から学べる科目を多数揃えています。科目担当者として心理学研究者に加え、医師・カウンセラー・司法鑑定員など実務経験豊かな者が多数揃っていることが強みになっています。(北原 靖子)

日本文化学科



富士塚の見学

今回は日本文化学科の特色ある授業を二つ紹介します。一つ目は「日本文化専門演習Ⅵ(伝統芸能・民俗学)」です。この授業では日本文化を実感し、その理解を深めるために積極的に巡見を行っています。これを通して関心を広げ、観察力を養うのも狙いです。今年度は「谷中霊園」「富士塚」「待乳山聖天の大般若講・大根まつり」「伝統楽器の修理工程」の見学をしました。二つ目は「日本の美術(1)(2)」です。日本の美術における基礎的な知識と鑑賞法を学びながら、そ

れを応用する試みとして、学科キャラクター「大和ふみかと愛犬きなこ」をモチーフとしたグッズ制作をしました。今年度は「うちわ」に挑戦しました。厳選なる審査の結果、学生の感性が光る華やかなうちわが完成しました。

理論だけでなく、感性や観察力を磨き、豊かな表現力を身につけるために、実体験を重視した授業が豊富なのが本学科の特色です。今後も多くご入学を心待ちにしています。(伊藤 純)



完成したうちわ



1歳クラスでの保育体験



附属保育園の園長先生・本学科卒業生の先輩保育士によるガイダンス

幼児教育学科

本学独自の授業『幼児教育体験学習』（1年生の必修科目）では、1年間通して実際に多様な〈ひと・もの・こと〉に出会い、体験しながら学びを深め、学生と学科教員がともに活動するなかで保育者としての土台を築いていくことをめざしています。

今年度の年間通したプログラム内容から、大学に隣接する「附属保育園での保育体験」に関する活動をご紹介します。4月のガイダンスからスタートし、保育における意味を考えながら、自分の名札の手縫いや、様々な道具を用いた掃除等を体験しました。7月には附属保育園の園長先生方によるガイダンスに参加し、とくに本学科卒業生の先輩保育士2名の語りに感動し、保育士への憧れの声が聞こえてきました。その後、初めて附属保育園を訪問し、子どもたちとのふれあいを楽しみ、8月にはいよいよ「保育体験」の日を迎えました。1歳から5歳クラスで保育所生活を一日体験し、一日の流れや保育士の仕事を知り、事前に学んだ子どもの発達と目の前の子どもの姿から、新たな気づきや理解を深める機会となったようです。体験後の振り返りでは、保育士の役割や援助、環境構成等についてもっと学びたいと意欲を高めた学生たち、現在も多様なひと・もの・ことに出会いながら、成長し続けられるよう学科教員とともに歩み続けています。(菅井 洋子)

教育学部

教育学部 Topics of the Year



児童教育学科

松本ゼミ(体育科教育ゼミ)で、8月7日～9日の3日間、「体育授業研究会 愛知大会」に参加してきました。

研究会の内容は、基調講演、公開授業、実技研修会、単元・授業づくりワークショップ、研究発表でした。基調講演では、思考・判断に焦点をあてた授業において、「発問」の重要性を改めて認識できました。児童の立場に立ち、児童の「困り感」を大切にして、目標や活動内容、学習過程を工夫すべきことを学びました。

公開授業では、4年生の「セストボール」の授業を参観しました。大学の講義で学んだ体育授業の省察観点を思い出しながら、松本先生からの指示で“批判的に”授業を観ながらメモを取っていきました。そのメモを元に、9月の最初のゼミで「あの教材はもっとこうした方がよい」「なんで2vs2だったんだろう」など授業内容の改善点を議論しました。

単元・授業づくりワークショップでは、大学の先生や現場の先生、大学院生に混ざり、公開授業でのセストボールの単元・授業をどうしたらもっと良くなるか、どうしたらより思考させることができるか、グループで議論を交わし、1時間くらいの少ない時間で1つの単元案を作成しました。皆さんの体育授業に対する熱い想いに圧されて自分の意見は中々言えませんでした。議論を聞いているだけで本当に勉強になりました。(日高 侑里)

生活創造
学部

生活創造学部

Topics of the Year



生活文化学科

生活文化学科は2018年度から、我孫子市農政課や我孫子市内の農産物の販売を手がける株式会社あびベジと産官学連携事業を行っています。

2019年度のテーマは「お惣菜」です。11の3年生ゼミを5つのグループに分け、それぞれのグループが「春」、「夏」、「秋冬」が旬の地元野菜を使うお惣菜をひとつずつ、合わせて3品考案します。各グループが考案したレシピをもとに、6月12日に試作と試食を実施しました。7月9日には農政課とあびベジに対して全レシピのプレゼンテーションを行い、「味」や「見た目」、「独自性」、「作りやすさ」、「原価コスト」の5つの視点から優秀レシピが審査されました。その結果、最優秀レシピ賞は、キャベツ、ニンジン、ジャガイモを豚肉で巻き、すき焼き風のしょうゆだれをかけた大坂先生・佐々木先生グループの「すき焼き肉巻き」が受賞しました。

「すき焼き肉巻き」は、11月16日に開催された第38回我孫子市農業まつりで商品化され、その後は我孫子市農産物販売所「あびこん」で販売されます(税込み280円)。また、その他のレシピも季節に応じて順次商品化される予定です。

自分たちが考案したレシピが商品化につながるというこの連携事業は、学生にとっても地域社会の一員としての自覚を促し、社会への貢献について考えるよい機会になると考えています。(藤原 昌樹)

試作の様子と最優秀レシピ賞
「すき焼き肉巻き」



観光文化学科

観光文化学科における産学連携授業の一つとして、春秋航空日本株式会社と株式会社エポラブルアジアとの連携による、北海道(ルスツリゾート・札幌)を舞台としたツアー企画プロジェクトを実施いたしました。

プロジェクトメンバーの学生5名は、事前の情報収集をもとに、現地で観光資源を探索したり、アクティビティを体験しました。持ち帰ったデータをもとに、ツアー内容を厳選し、女子目線でお得に新しいルスツと札幌を楽しむ企画をまとめ上げました。そして、エポラブルアジアへのプレゼンテーション、ルスツリゾートとわかさいも本舗との交渉を経て、無事、期間限定で販売に漕ぎつけました。その名も、「格安ツアープラン・ルスツリゾート・札幌の旅(2泊3日)」。

学生たちの夢を乗せたツアー企画は、9月1日～10月26日出発まで販売されました。学生たちは、チラシ作成やInstagramでの情報発信など、販売促進にも力を注ぎました。

なお、本件に関する記事が、大学プレスセンターのHPで閲覧数が1位になり、連携するサンデー毎日9月24日号に掲載されました。(種村 聡子)



大学院 理論と実践の往還

大学院 教育学専攻は、理論と実践の往還と自己省察を旗印にして、生涯学び続ける小学校教員としての資質・能力を身に付けたい人などを対象に開設されています。

実績としては、地元我孫子市立小学校の現職の教員2人の在籍があります。



平成29年度入学の教員は、長年取り組んできた特別支援教育について最新の研究の動向や学校での実践上の課題等を踏まえて、「交流及び共同学習」を中心に研究を

行いました。修了後は、その成果を勤務先の小学校の教育活動や子供たちの成長に生かしています。

平成30年度入学の教員は、勤務先の校内研究とも連動させつつ、小学校における語彙力の形成とその指導法について、日本語学等の関係諸学の成果を参照しつつ、さらには来年度スタートする新教育課程をも視野に入れつつ研究に取り組みました。

このように、教育学専攻は、その理念の実現を目指して、院生が最新の学問的な知見と学校での実践とを往還しながら研究を進められるよう、担当教員こそって務めています。

Society5.0時代を見据えて教職専門性を高めたい現職教員のチャレンジをお待ちしています。(田中 孝一)

さわやかな自己表現

文学部 心理学科
佐藤 哲康



本学に着任するまで私は、カウンセラーとして学校や教育の現場で臨床活動を行ってきました。その長い間の経験のなかで、多くの児童生徒や学生たちと一緒に人間関係やコミュニケーションの悩みに関わってきました。内向的で消極的な性格が多いため、周囲との交流も乏しく、仲の良い友人がいない中高生や受け身的な態度のために指示や指導がないと物事に取り組むことができず、不本意な学生生活を送る大学生など、たくさんの相談者が援助を求めて相談室にやって来ました。そんな彼らが悩みを解決する手

段の一つはさわやかな自己表現を身につけることでした。

「アサーション (Assertion)」をご存知ですか。アサーションは不安や怒りの表出を抑える自己表現として1950年代に米国で広まりました。当時、アサーションは神経症の心理療法でしたが、1960～70年代に起きた人種や性別による差別撤廃を目指した公民権運動にも勇気を与えて、権利や表現を抑圧してきた社会的な弱者にも広がっていきました。

アサーションとは、自分も相手も大切する自己表現であり、自分の意見や気持ち、要求などを正直に、率直にその場にふさわしい方法で表現すること、また同じように相手が表現する機会を奨励する人間関係なのです。



アサーション書籍

シュタイナー幼児教育の研究を通した学び

教育学部 幼児教育学科
近藤 千草



2018年4月より1年間、研究に打ち込む時間を大学よりいただきました。研究生活を過ごした場所は、母校でもある青山学院大学です。キャンパスは都心に位置しながらも緑が多く、附属幼稚園の子どもたちや小中高校生の楽しそうな声が響き、希望と光に満ち溢れています。キリスト教主義の大学であり、礼拝の時間やキリスト教に纏わる行事もあり、そ



母校(筆者撮影)

のような時間を持てたことは、物事への認識、思考、人への感謝など、多様な見方・考え方に刺激を与えてくれました。青春時代を過ごした場所に戻り研究ができることに、喜びに満たされた心で研究初日を迎えたことを今でもよく覚えています。

私の研究テーマは、ルドルフ・シュタイナー (Rudolf Steiner 1861-1925) というドイツの教育者の教育思想や人間観、教育内容や方法に関し、特に幼児教育の観点からその意義について検討することです。

私が研究期間の最初に行ったことは、シュタイナー学校や幼稚園等の根底に流れるシュタイナーの教育思想や人間観を整理し、魅了する根源を追究することでした。シュタイナーが書いた本や論文、講演録などはたくさん残されています。それらを読み、また同じテーマで研究している仲間との勉強会等を通し見えてきたことは、シュタイナーが人間の「本性」を深く理解し、時と共に

ジンジャークッキーの香りに魅せられて

生活創造学部 生活文化学科
今井 久美子



ジンジャークッキーとは、私のヒーロー、長靴下のピippiが作るクッキーである。ピippiがクッキーを作ると、本からバターの香りがした。ジンジャーの香りを想像しながら、小4の夏、私はピippiのような「世界一つよい女の子」になれますようにと願った。時とともに、この香りを知るようになった。

2012年フェルメールの「真珠の首飾りの女」に出会って以来、描かれた時間の空気が吸えそうな感覚を覚え、一瞬で彼の虜となった。昨年、東京と大阪で「フェルメール展」が開催された。行くぞと意気込も東京は行きそこない、大阪に出向いた。長蛇の列もなく、作品との距離は20cm、至福の時を過ごした。彼

は1632年オランダのデルフトで誕生、高価なラピスラズリが使える画家であった。43歳の生涯を終えるまでに描いた作品は35点(37点とも)、楽器のモチーフが多く、それも私にとって魅力だが、食卓のモチーフは少ないとされる。ところが、「フェルメールの食卓」(林綾乃著)なる1冊にこの大阪で出会ってしまった。フェルメールの絵画から食卓を紐解くと思いきや、1667年にオランダで出版された料理指南書「賢い料理人」を参考に再現した料理の紹介であった。17世紀のオランダの料理とは興味深い。料理本には、「輸入された食材のレシピ、メニューが思いつかない時のレシピ、ニシンの燻製や酢漬けなどの保存食、肉や魚の捌き方、材料別料理法、食材の栄養価」について書かれているとある。再現料理は野菜、ハーブや食用花のサラダ、茹でたホワイトアスパラガス、牡蠣のシチュー、ひき肉のロースト、パンプディングと現在も食卓にのぼる5種、どれも黄金時代の栄華を感じる。ところが、当時のオランダの食事は、宗教観から手づかみが主流の時代である。はちみつ、オイル、バターたっぷりの料理で手はべたべた？ 熱々料理の食し方など

欧米で誕生したアサーションは、自分が期待していることや素直な気持ちを直接表現することを避けてきた日本の文化や社会でも注目されているのです。私が現在、興味を持ち研究と実践を続けているテーマは“日本文化に適したアサーションの開発とトレーニングの活用”です。

アサーションには自己と他者が明確に分離・独立した考えや行動を持ち、表現することを社会が認めている欧米文化が背景にあります。一方、日本を含むアジア圏では自己と他者は社会的集団として結びついており、周囲との調和を重んじる東洋文化では自分の考えや要求を表現することは自己主張や自分中心と嫌われ、集団から孤立してしまう恐れがあります。

この調和を重んじる文化と集団から孤立する恐れは対人恐怖の症状として顕れることもあります。人間関係や対人場面で合理的ではない不安や緊張が生まれ、周囲から嫌がられているのではない、不快な思いをさせているのではないかと考えるようになり、恐怖から交流を回避するようになります。

私が支援してきた児童生徒や学生たちは、物事の失敗や他人からの拒絶を恐れ、人前で極度の緊張感を抱えていました。特に青年期には自身の外見や表情や仕草がどのように思われているか、他人からの非難という外的な恐怖や恥を感じることに繋がります。

現在、大学での基礎教養や対人援助の専門家を対象にした研修でアサーション・トレーニングを実践する機会があります。人間関係のストレスが多い現代社会において、お互いにさわやかな自己表現をできることが求められています。こうした文化的差異やコミュニケーションの特徴を理解したうえで、適切な自己表現のトレーニングプログラムを開発すること、実践することが必要だと考えています。



アサーション実習

変化する人間の本性に対してふさわしい教育内容と方法とを用いることで「健康な人間」を形成することでした。シュタイナー教育が目指す健康な人間の形成とは、単に身体が病気でないとか、怪我をしていないということではなく、人間の成長過程における様々な困難や課題に挑戦的に立ち向かい、様々な抵抗を乗り越える力をもって、乗り越えた、克服したと認識される時、また、一人ひとりが持つ体や、精神的な潜在能力を展開し、独自の人生を見出す自由を獲得した時、健康であると捉えています。自身が「自由」であると認識する背景には、健康な肉体がなければなりませんし、人生を切り開くパワーも持ち合わせなければなりません。何よりも自身にはどのような潜在能力があり、どのように開花できるのか、それがどのように他者や社会に影響を与えていくのか気づいていくことはとても難しいことです。



シュタイナー幼稚園の人形(筆者撮影)

「人生を見出す自由を獲得する」ことは自然になされるものではなく、教育という作用によって可能となります。そこでシュタイナー学校や幼稚園ではこのような力を育むために、子どもの身体や心の成長過程に沿った独自のユニークな教育を準備します。

現在私は幼児教育学科において保育者養成に携わっていますが、シュタイナー教育の研究を通し、子どもの本性を正しく捉え、幼児期の発達に最もふさわしい教育内容を準備できる人材を育成することの大切さを感じ取ることができました。人生が健康で豊かなものとなるように、その子どもの最初期の「生」に寄り添わせて頂けることに感謝のできる保育者を養成できるよう、この研究を生かしたいと思います。1年間の研究期間を下さいました川村学園女子大学、そして研究生生活を支えて下さいました先生方に感謝申し上げます。



シュタイナー幼稚園の季節のテーブル(筆者撮影)

を想像していたら、突然 P. ブリュエルの農民の婚礼の絵を思い出した。食文化とは本当に面白い。「賢い料理人」にいつか出会いたい。

1980年代、私は鉄の栄養所要量(現食事摂取基準)策定委員であった教授の下で、女性の鉄栄養状態のデータを集め解析する日々を過ごした。茨城県八郷市(現石岡市)、水戸市、勝田市がフィールドであった。調査では、教授がまず、調査のお願いと記録記入時の注意を促した。彼は「普段の食事をしてください。食事調査だからといい特別な食事はしないでください」と述べ、「例えば、寿司や天ぷら、うなぎはダメです」と付け加えた。すでに安価な寿司も天ぷらが売られていたが、大正15年生まれのとおり、これらはご馳走なのだ。私はどうだろうか。子どもの頃、寿司は来客時のご馳走であり、天ぷらは母の得意料理で私が一番好きな母の味、うなぎは食べた記憶がない。わが子は、ステーキのご馳走、クリームシチューや茶碗蒸し、雑煮がママの味らしい。時代や家庭により食卓が変わっても、我が家の味だけは、伝えて欲しいと願う昨今の食事情である。話はそれだが、調査結果は無事、鉄の所要量策定の貴重なデータとし活用された。同時に私の研究テーマとなった。

2019年度改訂の授乳・離乳食支援ガイド策定のための調査結果を見て愕然とした。離乳食作り方がわからないが5.3%である。そうか、調理に自信がないのか。レトルトの離乳食が増えるのも納得するが、家庭料理の行く末を案じる。食の簡便化と時短の中、食材の宅配がにわかに脚光を浴びるも、やはり同じ味だろう。我が家の味を失った時、個々の味覚の発達はどのようなだろうか。貧困や食料ロスの問題もかかえ、今の食事情は複雑だ。一方、家電の進化はすさまじい。カレーが食べたいと発すれば、「わたし」好みに計算されたカレーを提供するAIが登場するかもしれない。栄養士は人間の仕事として生き残るとある。だからこそ、AIにはできない誰かのヒーローになって欲しいと願い、私が魅せられた「ジンジャークッキーの香り」を卒業アルバムに忍ばせる。食は、未来の命を支えていることを伝えたくて。



私が描いた Pippi Langstrump

新任教員紹介



文学部

松本 修 講師
国際英語学科

今年度より着任いたしました松本修と申します。専門は外国語教育学、第二言語習得研究です。特にロシアの心理学者ヴィゴツキーの思想から発展した社会文化理論を背景に、第二言語の習得プロセスを研究しています。専門科目の他に英語の授業を担当しています。第二言語習得研究で得られた知見をもとに、より効果的な英語の指導を日々心掛けています。



文学部

塩谷 修 教授
史学科

史学科の塩谷修と申します。学芸員課程と考古学を担当しています。専門は古墳時代史です。これまで、地域博物館の学芸員として働いてきました。「信頼される博物館」が信条です。地域にとって博物館がなくてはならない存在であること、その必要性を実感してきました。博物館の現場で学んだこと、多くの経験をぜひ学生に伝えたいと思います。



文学部

大西 克典 准教授
史学科

今年から史学科でお世話になる大西克典と申します。主に西洋史関連の科目を担当しますが、私の研究対象は18世紀のイタリアです。中世以来多くの勢力が押し寄せてきたイタリア半島の歴史はたいへん複雑ですが、イタリア半島に視点を据え、ヨーロッパの歴史を見ていくことで、高校までの世界史とは違った角度から西洋史を見ていけるのではないかと考えています。



文学部

松岡 靖子 講師
心理学科

今年度着任しました松岡靖子と申します。専門は発達心理学です。これまで小・中・高のスクールカウンセラーとして勤務してまいりました。心理学の理論や研究と、実際の学校場面で子どもの発達をどのように支援していくかということが学生たちのなかでつながるように、現場の話を交えながら講義をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



教育学部

国谷 直己 講師
幼児教育学科

幼児教育学科に着任致しました国谷直己と申します。私は、日本の教育史を専攻しております。特に、戦前(第二次世界大戦期)から戦後にかけての動向に興味があります。これまで疑うこともなかった「子どもとは何か」「教育は必要なのか」「教育はどのように始まり、どう変化してきたのか」、など原理的な問いを学生の皆さんと一緒に考えたいと思っております。



教育学部

田中 聡 教授
児童教育学科

千葉県内の公立中学校教員を皮切りに、我孫子市教育委員会や千葉県教育委員会、公立中学校の管理職を経て、今年度着任いたしました田中聡と申します。専門は算数・数学教育、学校経営論です。新学習指導要領のキーワード「カリキュラム・マネジメント」や「アクティブ・ラーニング」等の学びを通して、学生が現場実践に生かせるよう尽力してまいります。



教育学部

寺岡 聡志 准教授
児童教育学科

今年度赴任致しました寺岡聡志と申します。かつて勤務していた小学校は、幼稚園と保育園と一体の施設でした。校庭では園児と児童が一緒になって遊び、校舎内を園児が移動していました。このような環境の中、保育者の支援や援助を学び、0歳からの途切れることのない育ちを目の当たりにしてきました。教育現場での経験を皆さんに還元できるよう努めて参ります。



教育学部

奥田 順也 講師
児童教育学科

今年度より着任した奥田順也と申します。私は現在、主に小学校の音楽教育に関する研究をしています。演奏としては声楽を専門に研鑽を積んで参りました。音楽の授業をする上での知識や技能に加え、小学校の教員を目指す学生の皆さんに将来使ってみてほしいと思ってしまうような「楽しみながら音楽を学ぶ方法」を1つでも多く伝えていきたいと思っています。



生活創造学部

佐々木 唯 准教授
生活文化学科

はじめまして、佐々木唯と申します。住居学を専門として、家庭科教育の住生活に関わる講義を担当します。これまで、古都・奈良を拠点に歴史的な町並みを活かした住生活調査や町づくり研究に携わりました。文化人の別荘地であった我孫子の地域資源を発掘して建築・都市・文化に関わる活動に取り組み、皆さんに活躍の場を提供したいと考えています。



生活創造学部

甲山 恵美 講師
生活文化学科

生活文化学科の甲山恵美です。おもにキノコの旨味について、研究しています。私は、美味しさとはなにか、をずっと考えています。栄養学を学べば学ぶほど、人によって感じ方が異なる美味しさを、定義づけるのは難しく感じますが、みんなが美味しいと感じている味がどんな味なのかは分析することが出来ると思います、今の研究に至っています。一緒に学びましょう。



生活創造学部

叶内 茜 講師
生活文化学科

はじめまして、叶内茜と申します。おもに生活文化学科と幼児教育学科の授業を担当しています。前職は小中高校で家庭科教員をしていました。また、研究機関では異年齢交流や幼保連携、子どもの食育に関する研究をしてきました。子どもたちは、ワクワクすることを見つけるのがとても上手です。そんな子どもたちの魅力を皆さんにも伝えていけたらと思っています。



生活創造学部

中山 穂孝 講師
観光文化学科

今年度より観光文化学科に着任しました中山穂孝と申します。専攻は、人文地理学で、特に温泉観光地の形成に関する研究を行ってきました。今年の4月に着任し、初めて顔を合わせた1年生は、不安と期待が入り混じった表情でしたが、今ではすっかり大学生らしい表情になっています。学生たちとともに私自身も日々成長できるように頑張りたいと思っています。



教育学部

真鍋 可苗 助手
幼児教育学科



生活創造学部

平中 菜摘 助手
生活文化学科



久保 舞 助手
心理相談センター

退職教員 ～2019年度～



【退職】 本学を退職する教員をご紹介します。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

金尾 健美 文学部史学科 教授
田中 孝一 文学部日本文化学科 教授
草信 和世 教育学部幼児教育学科 教授
小堀 貴亮 生活創造学部観光文化学科 教授



2019年度 年間行事一覧

Apr.
4月

1日 入学式

川村学園大講堂(目白)

5日 新入生オリエンテーション

- 国英 三菱一号館美術館
ラスキン生誕200年記念「ラファエル前派の奇跡展」
- 史学 すみだ北斎美術館・深川江戸資料館・清澄庭園 (5/11国立新美術館)
- 心理 我孫子クラブ (5/6学内にて音楽療法を体験)
- 日文 東京都美術館「奇想の系譜」・上野動物園
- 幼児 葛西臨海水族園
- 児童 国立科学博物館・国立西洋美術館
- 生活 裏千家東京道場・下町風俗資料館
- 観光 東京シティアイによるセミナー
帝国ホテル施設見学等



12日 川村学園創立記念日

13日 桜の公開 (我孫子)



16日 六華会奨学生授与式 (目白)

17日 六華会奨学生授与式 (我孫子)



■観光文化学科
産学連携事業
春秋航空日本(株)



Jun.
6月

21・22日 JAとうかつ中央主催松戸出張販売イベント に生活文化学科が参加



26日 学生総会(我孫子・目白)

Jul.
7月



3日 学友会主催・ 七夕抽選会(我孫子)



4日 学友会主催・七夕パーティー(目白)

8日 SA 主催・メイクアップ講座(我孫子)

25日 キャンパスコンサート



24~26日 日本文化実技Ⅳ 華道前期学内展示会

Aug.
8月

7・8日 児童教育学科 夏休み特別教室



Sep.
9月

3日 生活文化学科 「お惣菜開発プロジェクト」の最優秀レシ ピの表彰



14日 川村英文学会

28日 生活文化学科 食育事業「スマイルキッチン」実施



Oct.
10月

19日 鶴雅祭「活喜歓楽」1日目 レシテーション &スピーチコンテスト 他

日本文化学科
第19回日本舞踊発表会





保護者会(我孫子)
講演「現在の就職環境と今後の展望」
株式会社マイナビ 柳井 章 氏

20日 鶴雅祭「活喜歓楽」2日目
木村昴・木島隆一トークショー他

29日 SA 主催・
ハロウィンパーティー
(我孫子)

31日 学友会主催・
ハロウィンパーティ
(目白)



Nov.
11月

2日 観光文化学科
学生による
「ブライダル・プロジェクト」

8～10日 観光文化学科
学生企画の JR 駅から
ハイキング



9日 保護者会(目白)
講演「現在の就職環境と今後の展望」
株式会社マイナビ 高橋 誠人 氏

16日 我孫子市農業まつりに生活文化学科が参加



17日 史学科 鶴史会大会
講演「皇女と皇后」 梅村 恵子 名誉教授



20日 創立者記念日

23日 我孫子市合唱祭参加

Dec.
12月



4～6日 日本文化実技Ⅳ
華道後期学内展示会



5～6日 卒業論文提出

6日 『ちばI・CHI・BA』川村学園女子大学デー
11/16(土)～12/14(土)まで東京駅丸の内側 JP
タワー KITTE 開催
「あじさいねぎの野菜ドレッシング」
「白樺派のカレー (川村バージョン)」
といった生活文化学科
開発商品を販売6日は
本学学生と教職員が
商品説明に参加



8日 「温泉検定」(目白)
日本温泉協会 主催

18日 クリスマスコンサート

19日 学友会主催・クリスマス会(目白)

20日 学友会主催・クリスマス会(我孫子)

22日 「温泉ソムリエセミナー in
川村学園女子大学目白キャンパス」
温泉ソムリエ協会・川村学園女子大学
目白観光文化研究所 主催

Jan.
1月

16日 日本文化実技Ⅱ 日本舞踊学内発表会

Mar.
3月

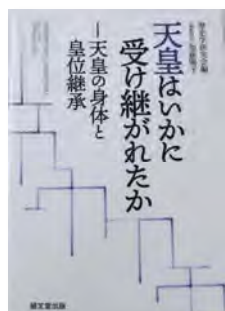
5～7日 13th としま MONO づくりメッセ
生活文化学科・観光文化学科参加

20日 学位記授与式
川村学園大講堂(目白)

卒業パーティー
ホテル椿山荘東京

Pick UP!

新刊のお知らせ



天皇はいかに受け継がれたか
—天皇の身体と皇位継承—

副学長 教授
西川 誠 共著

出版社：績文堂出版
発行年：2019年2月



皇位継承
—歴史をふりかえり変化を見定める—

副学長 教授
西川 誠 共著

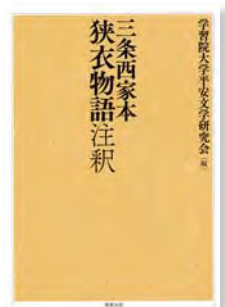
出版社：山川出版社
発行年：2019年4月



皇室事典 令和版

副学長 教授
西川 誠 共著

出版社：KADOKAWA
発行年：2019年11月



三条西家本狭衣物語注釈

日本文化学科 講師
千野 裕子 共編著

出版社：勉誠出版
発行年：2019年2月



女性労働の日本史

史学科 准教授
辻 浩和 共編著

出版社：勉誠出版
発行年：2019年3月



**ソンディ・テスト
解釈支援のための事例集**

心理学科 教授
松原 由枝 著

出版社：千葉テストセンター
発行年：2019年11月

心理相談センターの活動

7月28日に心理相談センター公開講座「専門家が語るこころの問題」を開催しました。第1講座「ストレス関連疾患とその治療」では、心療内科の医師でもある西川将巳先生より、代表的な心身症とその治療法についてわかりやすくお話しをしていただきました。第2講座「ひきこもりと発達障害の支援入門」では当センター長の簗下成子先生より、ひきこもりの様々な背景や症状、当事者への対応法その他に、発達障害についてモデル事例を交えてわかりやすく説明していただきました。休憩時間には来場者の方々と振

り付けで体を動かしながら歌うリズム体操を行いました。参加者は約100名となり、大変好評をいただきました。今後も地域に開かれたこころの相談室として尽力していきたいと思

(久保 舞)



花時計 vol. **41**

2020年3月1日 発行日

〔発行〕川村学園女子大学 〔編集〕広報委員会

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
TEL 04-7183-0111 (代表)
ホームページ <https://www.kgwu.ac.jp/>

■目白キャンパス

〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目1番19号
TEL 03-3951-0111 (代表)

大学ホームページ



大学ブログ

